

第4回、第5回有識者懇談会で頂いたご意見

国土交通省 四国地方整備局
四国圏広域地方計画推進室
令和6年7月3日

四国の強みと個性を活かした地域づくり

- ・各地域の個性を活かしてアンサンブルを追求する「四国カルテット」
- ・歴史的特性を強調するなら「ずっと四国」
- ・四国の特徴は、豊富な人材と生態系を含めた自然の豊かさ
- ・「魅力あり、且つ住み続けられるまち」
- ・「環境と自然が融合した働き方、暮らし方ができる四国」
- ・「人が自然に生きていくことができる場所」
- ・今までの経済価値ではない幸福感を感じられるような、「健康になれるまち」

- ・神山町の事例が地域再生の教科書。多様性と寛容性の社会作りが重要。
- ・町営バスを、タクシーを活用したオンデマンド型公共交通に切り替え、コストダウンと利用者増を両立した。実社会を良く見てインフラの無駄を無くすべき。
- ・伊方町の交流拠点施設は、大変注目が集まり賑わっているが、長期滞在に繋がっていない。また、地元の人が生活している所、暮らしに目がいっていない。
- ・空き家対策では、条件不利地の空き家が問題。住居として機能しない、アプローチが困難などのケースが多くあり、全ての活用は無理。
- ・人口減少下での住民生活の維持には、市町村界を越えた地域の連携が重要。
- ・産業や施設配置等のシミュレーションが必要ではないか。
- ・現在のインフラ等の公的支出が、1次・2次産業のものに偏っている。
3次産業に関わる人が混ざり合う為の、バーチャルとリアルの両方で融合できる環境への投資が重要。それが、さらなる産業の創出に繋がるのでは無いか。
- ・インターネット光回線が公設民営の地域において、トラフィック増に応じた投資が進まず、結果、その地域から離脱する移住者も確認されている。
山間部などの移動通信回線は、5Gどころか4G網にも問題がある。

- ・外との交流が無いと新たな産業や技術が起こらない。四国圏を一体として捉え、観光を通じて、圏域外・海外との交流、意見交換することが重要。
- ・観光の情報発信は統一性が重要。「四国は1つ」で取り組むところ。
- ・人の交流・移動は、交通利便性に大きく影響を受ける。
空港、駅、港など交通結節点での交通ネットワークとしての利便性向上が重要。
- ・インバウンドにとって遍路は1つの旅文化、巡礼は旅のため。
- ・四国遍路は、学校教育では宗教という認識で扱われている。四国全体で文化や観光として捉える必要がある。
- ・企業でも遍路を理解する必要があると考える。メンタルヘルスケアとして健康と遍路を結び付けて、自然の中で過ごす、お遍路休暇の採用を。

- ・グリーンインフラには、チャレンジ精神をもって取り組む必要がある。
成就の秘訣はインフラ側とグリーン側の両方がwin-winの関係になること。
- ・ゼロカーボンシティや富裕層対策として観光地にEV充電インフラの導入が推進。四国の自治体が、CN、DX等最先端で取り組めば、環境先進地、きれいな四国と言える。
- ・DXやGXのD(デジタル)、G(グリーン)はできても、
X(トランスフォーメーション)を担う人材がいない。育成が必要。
- ・女性や子どもが主に使う施設でも、計画策定は男性が中心になっている。
- ・徳島では、女性という切り口の防災ネットワークが形成されている。
- ・計画段階から、女性の参画や子供の意見聴取する仕組みと風土が必要。
- ・データを広く公表し、活用しやすく。
- ・広く見て貰ううえでは、計画、特にパワポなどの概要説明はシンプルに。
- ・おかしい英訳にならない様に気を付けて。